

**1 記念館の利用の承認等に関する業務****● 来館者数の動向**

第4四半期の総来館者数は、前年度同期に比べ513人減少した。事業別に分析すると、展示事業は前年度の1%増加で入場者数が大きく変わらないことから、上映事業の入場者の減少が要因となっている。前年度より増加している月もあるが、1月の上映事業が前年度同月に記録した過去最多の観覧に比し、その落ち込みに著しいものがあった。

**2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務****● 施設・設備の維持管理**

- ・通常の設定保守・点検等が適切に実施されている。
- ・館内環境について適宜報告があり、記念館の環境維持に配慮した施設管理を実施している。
- ・3月に市が施工した旧和辻邸石段改修に合わせ、指定管理者としても付近の修繕を実施するなど、効率的かつ効果的な協力のもと利用者への便宜が図られた。

**● 資料等の維持管理**

- ・施設の特性を考慮しつつ、適正な維持管理が行われている。

**3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務****● 上映及び展示**

- ・事業計画どおり、通常展や映画事業を実施している。
- ・展示事業では、第3四半期に引き続き「巨匠が愛した女優たち」を展示した。また、3月末の年度区切りにこだわらず、平成30年度第1四半期にまたがって「大映映画のスターたち」を展示するなど柔軟なプログラム編成の効果により観覧者も増加した。
- ・上映事業では、前述のとおり1月に上映した作品の観覧者が伸び悩んだことが原因となり観覧者数の減少となった。個々の作品には過去に盛況であったものが今期は不入りとなり、結果に結びつかないことから、トレンドの分析等の研究を要する。一方、3月の上映事業は前年度同月に比し288人増加となっていることから、展示と連動した上映という制約のある中、集客性のある上映作品の均等化を図ることが難しい結果となった。

**● 調査、研究及び情報提供**

- ・映画談話室「スクリーンで見る『鎌倉映画地図』」と題し、3月に総括責任者がトークイベントの講師を兼ね、映画の中の鎌倉をテーマとして調査研究の成果について発表した。
- ・情報資料室において映画資料や関連図書等の情報提供を行った。また、映画上映時に配布している各作品の概要をまとめたリーフレットを綴じたものを配架し、誰でも手に取って見られるように整えた。

**● 広報及び宣伝等**

- ・市広報に展覧会や上映内容などの情報を掲載しており、さらに、市本庁舎内のモニターによる広告も利用し、より多くの市民等へ利用促進の情報発信を行った。
- ・チケット販売店や都内名画座、近隣市町の図書館にチラシの配架及びポスターの掲示等を依頼し、記念館への集客に向けた広報及び宣伝等に努めた。

## ● その他の事業

- ・例年子どもを対象に実施しているシナリオ教室を、一般向けとして「はじめてのシナリオ教室」と題して実施したところ、定員を満す応募があり、関心の高い事業であることが確認できた。
- ・活動弁士の澤登翠氏を迎え、トークイベントとサイレント映画の活弁付き特別上映(恋の花咲く伊豆の踊子)を実施したところ、満員盛況であった。
- ・NPOの協力を得て「こどもおはなし映画館」と題して、子ども向け作品の朗読と映画上映を楽しむワークショップを開催し、これまで当館に足を運ぶことがなかった未就学児とその保護者という新しい世代を取り込むことに成功した。
- ・上映とトークイベント「日本映画の新しいカタチ」を開催し、新進気鋭の若き映像作家の作品を取り上げ、上映後に監督や俳優、関係者のアフタートークを実施し、作品を深掘りするとともに、新たな才能への支援を行った。

## 4 その他市長が定める業務等

### ● 事務処理

- ・例月の指定管理業務報告書等は期日までに提出されている。  
1月分2月9日、2月分:3月14日、3月分:4月13日提出
- ・利用者からの声に対しては迅速に回答し、管理運営に反映させることを検討している。

### ● 事故・苦情対応

- ・事故・苦情はなし。

### ● その他

- ・近隣文化施設4館提携事業として「ミュージアムめぐりスタンプラリー」を実施した。
- ・3月20日から25日までの6日間、市の依頼による満足度調査アンケートを実施し、市民利用率及び展示や上映の内容、職員の対応など来館者の意向を確認した。
- ・市が主催して旧和辻邸及び庭園で実施した、参加した方が庭を散策して気に入った木の葉や草花を摘み取り、ハンカチサイズの布に木の葉などを縫い付けるなど、縫うことを通して記憶するワークショップ「庭をぬいぬい柵瀬茉莉子」に協力し、施設活用の可能性を試行した。

## 5 全体評価

- ・過去最多となった昨年度の第4四半期の来館者数に対し、今年度は約90%となった。来館者数の増加に向けて展示内容とそれに関連する上映作品の選考や宣伝方法を工夫するなどの必要があると思われる。
- ・シナリオ教室、「日本映画の新しいカタチ」、子ども向け企画、バリアフリー上映などの事業実施を通し、新たな来館者層の掘り起こしに取り組んでおり評価できる。
- ・映画談話室を継続開催していることにより、着実に事業が施設利用者に浸透している。単に作品の上映だけでは知り得ない映画にまつわる知られざる逸話を紹介することで、映画への興味や魅力を引き出して関心が高まるように誘導しており、今後もより一層、企画内容を向上させ、更なる充実を期待したい。
- ・市が施工する修繕と指定管理者が施工する修繕をそれぞれ時期を合わせ一体的に行ったことにより、効率的かつ効果的な整備が図られ、来館者の利便が向上した。
- ・施設の維持管理などの業務に関しては、細やかな報告が徹底されており、施設管理者に対して市が求める水準に達している。